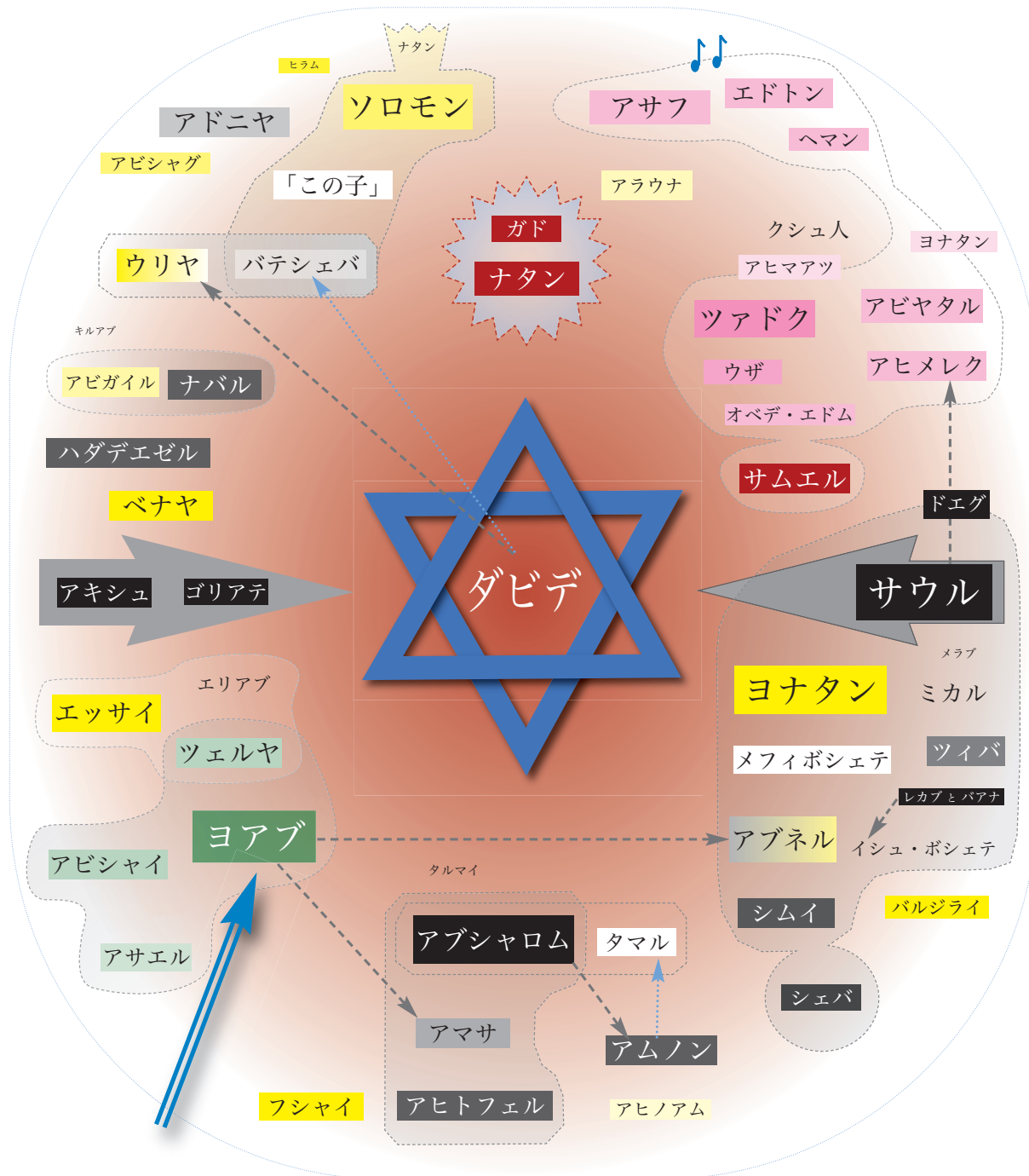


ダビデを



取り巻く人々

ヨアブについて

1.) ヨアブは、ダビデの姉ツェルヤの子で、ダビデの將軍となりました。しかしダビデが王になる前には、彼の名前は一度しか言及されていません。おそらく彼はダビデに従ってサウルから逃げたでしょうが、その証拠はほとんどありません。しかし2サムエル記には彼の名前はダビデを除いては一番多く出て来ます。

2.) 2サム2章の、イシュ・ボシェテ（サウルの息子）との戦いにおいて、ヨアブはダビデの軍のリーダーでした。そしてその最後の章(24)でも、まだダビデの軍の將軍でした。しかしこの2人の関係はいつも良かったとは言えなかったようです。1列王2:5-6のダビデのソロモンに対する言葉の中の、ヨアブについての言及を見て下さい。

3.) ダビデは、ヨアブの代わりにアマサを將軍にしようとしたのかもしれませんが(2サム19:13)。しかしヨアブはアマサを殺してしまいました(20:8-13)。これが、ダビデが最後の言葉の中で言及した、ヨアブの犯した殺人の一つです。もう一つは、イシュ・ボシェテの將軍アブネルです(2サム3:23-30)。ヨアブは、明らかにこの人たちをライバルだと思っていました。アブネルは、ヨアブの兄弟を戦争中に殺しました。だからその理由でも、彼を憎んでいました。

4.) 2サム10:9-14の、アラム人、アモン人との戦いでは、ヨアブの勇敢な姿が見られます。彼の生涯を見る時、神様に対する態度には矛盾が見られますが、12節の彼の言葉には、神様への信頼が表わされています。また1列王2:28-33で、彼が主の天幕に逃げた事や、そこから出る事を拒んだ事は、何を意味しているのでしょうか？彼はある種の信仰は持っていたでしょうが、本当に救われていたのでしょうか？

5.) 1歴代11:4-9は、ヨアブはエルサレムに最初に入った者として記録しています(並行箇所2サム3:23-30には彼の名前は直接の記載なし)。はっきりとはわかりませんが、その箇所は彼の信仰的な勇敢さよりも、野心について多く書いているかもしれません。ダビデはその頃、彼の代わりの人を立てようとしていた可能性もあります。

6.) 神様は預言者ナタンを用いて、ダビデを悔い改めに導きました(2サム11)。似ている方法で、ヨアブはテコアの知恵ある女に感情的な物語を語らせ、王にアブシャロムを連れ戻す決心をさせました。ここに類似性はありますが、「知恵ある女」は主の預言者とはずいぶん違います。ヨアブは私達の知る限り、預言者とは何の関わりも持っていませんでした。

7.) その生涯の終わり近くに、ヨアブはダビデの人口調査に反対しました(2サム24:1-4, 1歴代21:1-6)。それは正しい事でしたが、ソロモンに対抗して、アドニヤの側についたのは、間違った事でした(1列王1:5-8)。なぜ、彼はそう首尾一貫していないのでしょうか？彼は軍の長として、常に一番良いと思われるように行動していたからかもしれません。彼の軍隊を数える事も、ソロモン王につく事も、彼に問題でした。彼が自己中心だった事は、首尾一貫していたと言えるでしょう。

8.) 右のワークシートの目的は、ヨアブが本当の信者だったかどうかを決める事ではありません。(断定はできませんが、たぶんそうではなかったでしょう。)目標は、彼の生涯を詳しく見ていき、彼の失敗から学ぶ事です。彼の一番大きな罪は何であって、なぜそれをしたのでしょうか？私たちも神様のあわれみにより、どのように彼のような失敗を避けることができるのでしょうか？

ヨアブの人生に起こった出来事

下の聖書箇所を読み、ヨアブの行動を-5から+5の間で評価してみましょう。-5は彼のした事で一番悪い事、+5は一番良い事です。全部を一度にするのではなく、少しずつする方がいかもしれません。

1.	2サム 2:12-17	お互いの若い者を闘技させる事に賛成する。	
2.	2:26-28	戦いを止める事に同意する。	
3.	3:23-30	アブネルを殺害する。(1列王 2:5-6)	
4.	5:6-10	エルサレムの征服をリードする。(1歴代11:4-9)	
5.	10:9-14	ヨアブとアビシャイはアラム人とアモン人を負かす。	
6.	11:14-21	ダビデがウリヤを殺す手助けをする。	
7.	12:26-31	ラバの勝利をダビデの栄光とする。	
8.	14:1-3, 19-24	アブシャロムをエルサレムに連れ戻す。	
9.	18:10-17	アブシャロムを殺す。	
10.	19:13, 20:8-13	アマサを殺害する。(1列王 2:5-6)	
11.	20:16-22	シェバを殺すが、町は守る。	
12.	24:1-4	ダビデが民を数える事に反対する。(1歴代21:1-6)	
13.	1列王 1:5-8,	ソロモンではなく、アドニヤの側につく。	
14.	2:28-33	主の天幕に逃げるが、ソロモンに殺される。	

結論と適用

ヨアブの生涯全体を、どう評価しますか？ 彼の一番大きな罪と失敗は何でしたか？

私達はどのように、そのような事を避けることができるでしょうか？

ヨアブの人生から学ぶ事

1.) 力ある人を信頼しない事

1サムエル記から学ぶ主なレッスンの一つは、サウル王のような力ある敵に注意しなさい、という事。そして逆に2サムエル記から学べる事は、ヨアブのような力ある同盟にも注意しなさい、という事です。ダビデはサウル王を完全に避ける事はできませんでした。また神様も悪い王をすぐに退けて、ダビデを代わりに立てる事をしませんでした。2サムエル記でも、ダビデは將軍ヨアブを退けようとしていましたが、できませんでした。その結果、彼はヨアブと何年も関わり合いを持たなければなりません。ちょうど彼が何年もサウルから逃げ隠れたように。私たちの地上の働きや仕事が何であっても、困難や危険がなくなることはありません。

2.) 神様のご計画を信頼する事

ダビデからソロモンへの最後の言葉の中に、ヨアブについての言及がありますが、それはアブネルとアマサの殺害という大きな罪を指摘した、否定的なものでした(1列王2:5-6)。明らかに、ヨアブは軍隊の長として、その敵について主にゆだねることはしませんでした。それで彼は2度の殺害を犯したのです。(ダビデは2度、サウルを殺す事のできる機会に、殺す事を拒みましたが。)アブネルとアマサは、戦いの中でヨアブの敵でしたが、戦いが終わった後は同じイスラエル人として、彼と同類でした。だから彼らを殺すことは殺人でした。

ヨアブはアブネルを裏切り者と見なすのではなく(2サム3:24-25)、新しい同盟者として信頼するべきだったでしょうか？その方がある程度良かったかもしれませんが、完全に信頼する事は、上の要点に反します。注意深くする事は大事です。ヨアブの基本的な問題は、人への信頼が欠けていた事ではなく、神様のみこころに信頼し、従わなかった事です。彼が2人のライバルを殺した主な理由は、おそらく自分の地位を失う事に対する不安だったでしょう。

3.) 神様ご自身を信頼する事

ヨアブの理解で一番難しい事は、なぜ彼がある程度は神様を信頼し(例えば2サム10:12の異邦人に対する戦いの時)、他の時に、自国のライバルの事については信頼しなかったか、という事です。彼は1サム10:9-14で、2つの敵の軍隊に勇敢に直面しました。しかし自国において自分の地位を守るために、卑劣にも2人の罪なき人を殺しました。なぜですか？おそらくその理由は、彼にとって軍隊の長という自分の地位は、他の何よりも大事なものだからでしょう。神様に喜ばれる事は、一番の優先順位ではありませんでした。彼は偶像崇拜の国々の軍隊と戦いましたが、ヨアブ自身も偶像を持っていました。彼の地位という偶像でした。何と悲しいことでしょうか！

残念ながら、今日も同じように、主を真に信頼していない「クリスチャン」が時々います。そのような人々にとって、世的な成功(または他のもの)が彼らの偶像になっているのです。それも悲しい事です。